

異食に対する個別ケア

地味だけど「**継続**は**チカラ**なり」

社会福祉法人 慈恵会
特別養護老人ホーム 西島寮

1

ご利用者様について

要介護度3 年齢88歳 女性

主な既往歴／認知症、胃がん再発の術後、高血圧症。

※歩行や食事は自立。排泄は失禁がありますが、排泄動作は自立しています。

2

異食行為の発見までの経緯

もともと収集癖があり、トイレトペーパーやペーパータオルを集め、折り紙にして兜を折り続けていた。



3

胃部不快の訴え、嘔吐があり受診

4

これは何の写真でしょうか？



5

診断結果

異食により大量の紙が食道に詰まっていた。
しかも、胃を全摘しており消化する胃がなかった。



入院し、胃カメラで異食した紙を取り除くという苦痛を伴う治療を受けた。

6

退院と共に家族に迫られる選択

異食行為は生命の危険に関わること

- ▶ 今までいた特養での変わらない暮らしができるのか？
- ▶ 精神科病やグループホーム等、他施設を検討するのか？

家族は今までと変わらない「特養」での暮らしを希望され、必要な事は協力してくださいと。

7

検証と退院後の課題

【行動の検証】

トイレへ行く度に、ペーパーをポケットに入れて収集する。雑誌や塗り絵も、気づかぬうちに破いて、切れ端をポケットやベッド周囲に集めている。手先が器用で、兜を折ったり常に何か作業をしたい性質、性格である。

【課題】

多くの利用者が共に生活する中、居住空間の紙類を撤収するのは難しいのでは。異食できない物への興味をもてるか。

8

多職種で話し合い、チームでの取り組み

日々の申し送り、医務会議、担当者会議、色々な場面で意見を出し合い、問題解決の糸口を探し出し、一つ一つ試していくことに決定する。

その方の性質や性格を理解し、尊重した対応をしていこうと！

【実施した取り組み】

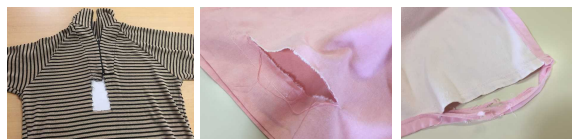
- ▶ トイレ時は必ず付き添い、ポケット内を確認、紙類を回収した。
- ▶ ルービックキューブ等、手を使う異食の心配が無いおもちゃを渡した。
- ▶ 塗り絵や折り紙を渡して、終わったら必ず回収した。
- ▶ 食べられる紙(でんぶんでできた紙)を用意した。
- ▶ 排便状況を確認し、看護師による腹部の触診を行い、異常の早期発見を図った。

9

日々、異食行為と向き合う

更なる問題が発生！

衣類や寝具類の糸を異食するようになる。



和裁経験がある為、上手に衣類の縫い目をほどこき破いて、その糸を異食。服がボロボロになるまでやり続けるようになる。

10

みんなでその方の生活を守りたい

- ▶ 割烹着で上着を保護したり、パイヤステープで縫い目を隠したり、破けた衣類は裁縫が得意なパート職員に協力してもらい、服をリメイクした！
- ▶ 口をモゴモゴしていたら、うがいを勧め、糸くずを出してもらい細目に対応した！
- ▶ 地味だけど、根気があるけど、みんなで守りたい気持ちで、毎日毎日、同じケアを行った。

11

ご利用者様の今は？

食道から腹部の異常はなく、排便状況も良く、他のご利用者と一緒に元気に過ごされている。



パッチワークで衣類復活



折り紙で作った吊り兜

12

ご利用者様の今は？

食道から腹部の異常はなく、排便状況も良く、他のご利用者と一緒に元気に過ごされている。



しかし、**一年が経過した現在も異食行為は続いている。**

13

観察や個別ケアの継続

ご利用者の方がらしく暮らしていくには？



そのためには、一人ではできない。多職種がチームとなり、連携を図り、皆で考え行動し、そして修正していく。失敗もあるけど、その中にヒントが隠れていることが多い。すべては、その人らしさ「個性」を大切にすることが問題解決の糸口となり、安定した生活の維持に繋がると考えます。

14

ご清聴ありがとうございました。

社会福祉法人 慈恵会
特別養護老人ホーム 西島寮

15